

青年海外協力隊 活動日誌 「ブラジルで体感「ブラジル」と「日本」」

上島町の皆さん、こんにちは。お久しぶりです。JICA日系社会青年ボランティアとしてブラジルで活動している堀本梓織です。

ブラジルは、日本と場所・季節が正反対、そして国土は日本の約23倍という国です。一くくりにブラジルということは難しいので、今回は、私が体感したブラジルの2つの社会を紹介します。

今、私はブラジル最大都市「サンパウロ」の近郊に住んでいます。気候は、夏は日差しが強いものの影に入ると涼しく、冬はコートが必要なくらい寒くなります。気温自体は、上島町とあまりかわらないのではないのでしょうか。又、バスに乗ると様々な肌の色や顔つきの人に会うほど、黒人系・混血系・白人系・アジア系など様々な人種の集まった国でもあります。人々は、サッカーやフェスタ（お祭り）が大好きで、細かいことは気にしない陽気な性格です。そして、右も左も、ポルトガル語もわからない私の手を引いてバスに乗せてくれる世話好きな人たちでもあります。

「サンパウロ」は東京のようにビルが建ち並び、地下鉄も整備されています。物も困らないくらい、何でも手に入ります。ただ、道にゴミを捨てる人が多いことや、犯罪など、悪い面があることも事実です。

ブラジルには、戦前からの移民政策で多くの日本人が移民してきました。そして、その方々や子弟の方々が日系人の植民地（コロニア）を作りました。私は、この国全土にあるコロニアの1つ、「イタペチ」で活動し



ています。約40の日系家族が暮らしています。ここには、地域でのお祭りや行事、カラオケやゲートボールなどの日本の文化、そして日本語が残っています。食べ物も、寿司に納豆、お汁粉、何でもあり、今どきの国にいるのかわからなくなるほどのです。

私は日本語学校の教師として、3歳から高校生の子どもたちに日本語・文化を教えています。この地域では、外国語として日本語を教えるのではなく、代々受け継がれていく継承日本語の教育を行っています。しかし、世代が進むにつれ、ポルトガル語が生活言語になり、日本語を話せる人も減り、日本文化への関心も薄れているように感じます。日系社会に入ることが出来る貴重な2年間、簡単なことではないですが、子どもたちが少しでも日本への興味・自分のルーツ、日本語に興味・関心を持つきっかけを作るとな活動を行いたいです。

《堀本梓織 プロフィール》

2009年日本語教師養成講座修了。海外にある日系社会とそこで受け継がれている継承日本語教育に興味を持ち、2010年からJICA日系社会青年ボランティアでブラジルに。日々の生活を綴ったブログ「ITAPETTI日記」<http://ameblo.jp/2010j28/>も更新中。

「えひめ海外協力大使」活動写真展 開催！

～愛媛から世界でがんばるJICAボランティア～

【日時】 4月11日(月) から15日(金)

【会場】 愛媛県庁 第一別館玄関フロア

【展示内容】 開発途上国で活動中のJICAボランティア「えひめ海外協力大使」は現在で50名います。その内14名から届いた現地の活動写真やそれぞれの国での生活の様子を紹介しておりますので、皆さんご覧ください。

こんにちは 町長です



東北地方太平洋沖地震での被害は、常識をはるかに超えるものであり、どのように今の気持ちを表現したら良いのかも分かりません。

ただ、小さな町ではあるけれど、被害がなかった上島町が何をなすべきか、何ができるのかを真剣に考え、町民の皆様にもご協力をお願いを申し上げているところです。

被災地に派遣している上島町消防署小林隊長の了解のもと、激務で悲惨な状況の中での、活動報告の一部を掲載させていただきます。

『皆様お変わりはないでしょうか。(略)被災地の住民の方々は、我々を温かく迎えていただき、野営地での活動を支えていただきました。』

野営地から現場までの道中では、消防車両で隊列して走行中の我々に、足をたち止め、何度も頭を下げ続ける方、感謝の言葉をダンボールで掲げる方、手を振り応援してくれる子供達…疲れた隊員の心の支えとなりました。

ただ今、後ろ髪を引かれる思いで現地を後にしています。私が言うまでもありませんが、どうか皆様も、被災された方々のお力になっていただけるようお願いいたします。』

上島町長

上村俊之